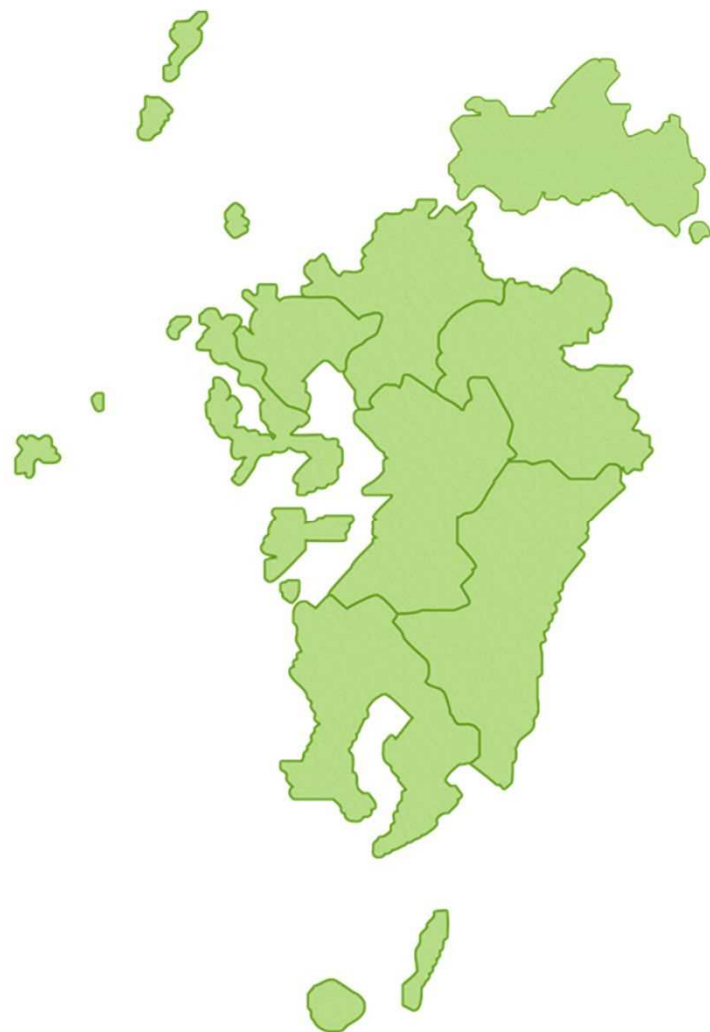


ゼロ・カーボンアイランド九州



九州・山口規模で取り組むことにより
大きな効果が発揮される
カーボンニュートラルの事例紹介



プラスチック製品からの炭素排出・循環の現状

出典 ※：プラスチック循環利用協会
 アンモニアガス：東京高圧山崎株式会社
 ボイラ発電：四電エンジニアリング株式会社
 その他写真：日本容器包装リサイクル協会



※急成長の可能性



(1)未利用廃プラ

15%
※シェア

(2)サーマルリサイクル

60%



燃料化



ボイラ発電

熱として活用

(3)マテリアルリサイクル

22%



物理的に粉砕



製品化

再製品化して活用
(品質は劣る)

(4)ケミカルリサイクル

3%



化学的に分解



ガス化
(昭和電工等)



油化
(ENEOS 三菱ケミカル等)

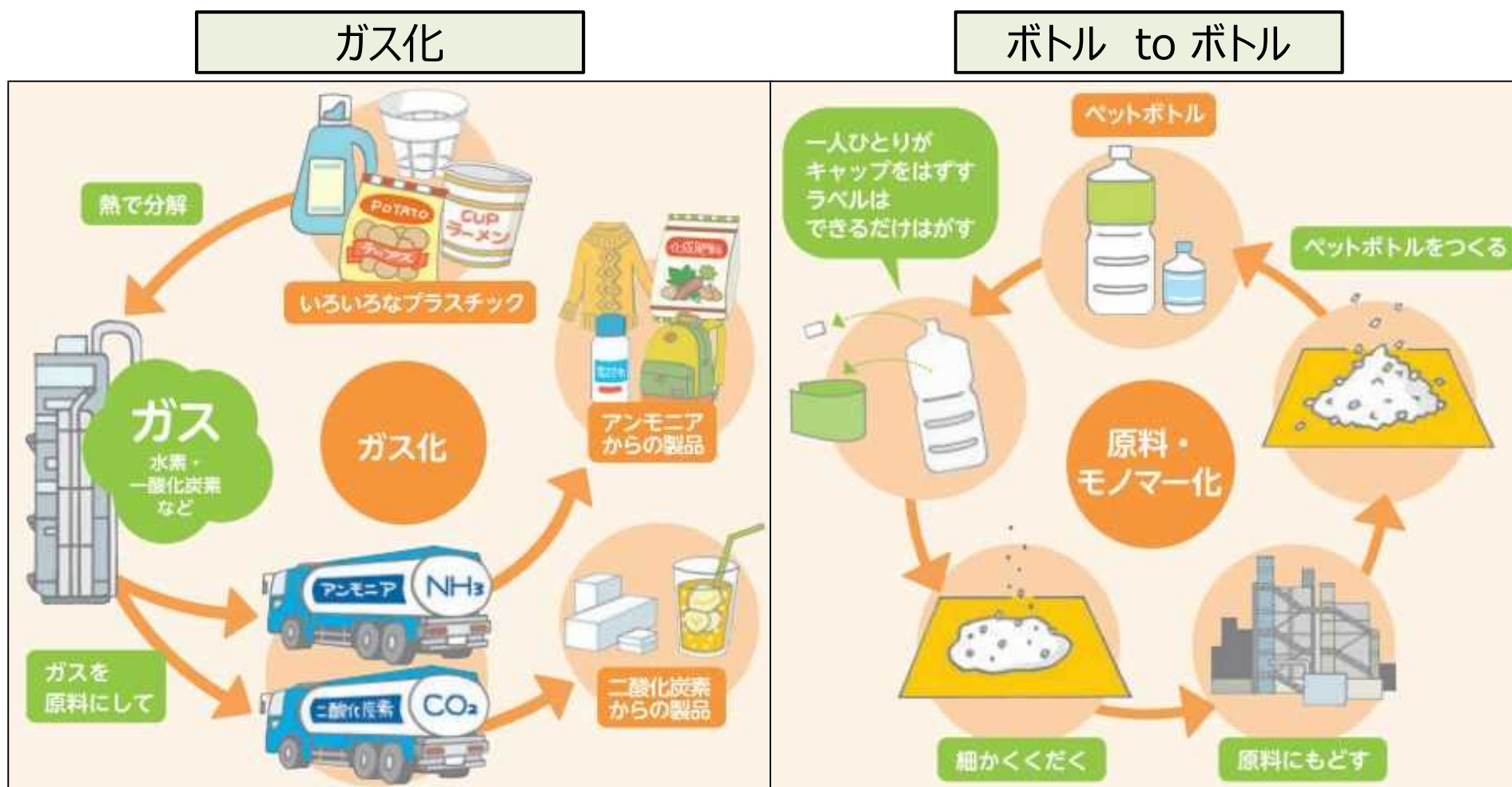


ボトルtoボトル
(日本環境設計等)

原料化して様々なものに活用

ケミカルリサイクルのメリット

- ✓ 原料まで化学的に分解・分離することにより、**より細かな異物の除去が可能**
- ✓ 原料から新たに**様々な化学製品をつくり出すことが可能**
ボトル→石油製品、水素、アンモニア、ドライアイス、ボトル など



持続的な仕組みとするための課題

- ✓ 材料となる廃プラの十分な量の**安定確保**
- ✓ 輸送ルートを含め**効率良い回収のオペレーション**

